

おはようございます。8番、憲政会の武田伊佐雄です。

通告に従い一般質問を行います。

1 子育て支援について

(1) 高校生までの医療費無償化について 伺います。

平成30年3月の一般質問において、『一般的には18歳までが子育て支援の対象年齢になるものと考えている』と福田市長からご答弁を頂きました。当時、子育て支援として中学生までの医療費無償化を保護者の所得制限なしに行っていたのは県内では本市だけという取組状況もご説明いただきました。

その一方で、県外の状況を見ますと高校卒業まで医療費の無償化に取り組んでいる自治体もあったことから、医療費の助成について対象を高校生までに拡大すべきだと提言致しましたが、事業化に向けてこれまでにどのような検討がなされてきたのかお示してください。来年度から東京23区では高校生までの医療費を無償化にするという報道があって以降、市民から本市においても対象年齢拡大を求める声が多く寄せられていますので、お尋ねいたします。

(2) 放課後児童教室について 伺います。

近年、放課後児童教室を申し込んだが入れなかったという、いわゆる待機児童についての悲痛な声が増えております。解消に向けた努力は常任委員会でも確認していますが、年度代わりに届く保護者の不安な声が無くならない現実にもどかしさを感じます。今年度の現状と今後の対策についてお聞かせください。

2 人口減少対策について

(1) シティープロモーションについて 伺います。

コロナ禍において社会的にICTの普及が急速に進みました。観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇を取る過ごし方、いわゆるワーケーションの環境整備について本市でも取り組んでいるところと認識しております。また、岩国錦帯橋空港の活用による本市と首都圏の二拠点生活の推進は関係人口の増加、さらには移住につながることを期待するものです。しかし、多くの地方自治体の中から、わが町が選ばれるための競争は激化しております。本市が選ばれるための現状の取組とDXが進みweb3.0などの新時代に向けてどのような展望を持っているのかお尋ねいたします。

3 公共交通の在り方について

(1) 交通弱者の視点に立った運行について 伺います。

今定例会の初日、議案に対して市営バスの減便について質疑がありましたが、これは近年のバスの減便に対して多くの市民から不安の声が寄せられていることを表していると改めて感じました。

今年度は乗り合いタクシー事業がいわくにバスの代替サービスとして開始されるなど、利用者の減少という課題に対して形を変えても公共交通の存続に向けた本市の努力を感じるにはありますが、利用者を増やすような掘り起こしのための取り組みについてお尋ねします。そのためには、市民ニーズをより適切に把握するための調査などが必要だと思いますが、どのように取り組まれているかお示してください。また、バス、タクシーの運転手不足の懸念に対して、運転手確保のためにどのような取り組みがなされているのか併せてお尋ねいたします。

以上で、壇上からの質問を終わります。